



東北から始まる「いのち」を育む農林水産・食品産業の構築

令和5年度における活動実績・成果の概要

農学研究科では、「食と農免疫国際教育研究センター」「放射光生命農学センター」「次世代食産業創造センター」の3つのセンターを推進母体として、社会課題解決に取り組んでいます。それぞれの主な活動を紹介いたします。

■食と農免疫国際教育研究センター（CFAI）

①岩手大学、東北大学、東京大学、大阪公立大学、神戸大学、宮崎大学の6大学で食の安全性に関する課題に取り組んでいる部門が当番制で取り組みを紹介する「6大学共催フォーラム -Designing foods for the future-」を東北大学知の館にて開催。2024年度東北大学知のフォーラムのプレイベントとして、2050年の食糧問題を解決する方法に関連する講演を行いました。(2023.9.28)

②海外の大学との連携による研究拠点形成の取組として、アルゼンチン国立乳酸菌研究所（CERELA-CONICET）および台北医学大学保健栄養学系にて、大学院生が研究者交流を行いました。
(CFAIホームページ：<https://www.agri.tohoku.ac.jp/cfai/>)



6大学共催フォーラム（2023.9.28）

■放射光生命農学センター（A-Sync）

① 2024年度の次世代放射光施設（NanoTerasu）の本格稼働に向け、宮城県や仙台市と連携し地元を中心とした民間企業と共同で、Spring-8などの国内既存放射光施設を利用して、農産物・食品の測定事例の創出に取り組みました。食・農領域における放射光施設の活用推進を図っています。

②「学生・若手研究者のためのNanoTerasu ワークショップ」を開催。生命科学領域での放射光研究の最新事例の講演と活発な討論の後、完成間近のNanoTerasuを見学しました。(2023.10.27)

(A-Syncホームページ：https://www.agri.tohoku.ac.jp/jp/center/agri_a-sync/)



NanoTerasuワークショップ
(2023.10.27)



東北から始まる「いのち」を育む農林水産・食品産業の構築

令和5年度における活動実績・成果の概要

■ 次世代食産業創造センター (ICAF)

①次世代農業創造部門では、「せんだい次世代スマート農業・生産技術ゼミ」(仙台市認定農業者等経営力強化事業)を実施。最先端の研究者・技術者からの実践的な講義と現地実習を開催しました。

また、県内でスマート農業を普及させるため令和5年9月に設立された「みやぎRTK利用拡大コンソーシアム」の事務局として、活用事例の把握や改善策の検討、実証モデル設置による技術実証、情報発信などを行いました。

②フード・マテリアル部門では、歯学研究科および宮城大学食産業学群と連携し、「革新的食学拠点国際シンポジウム」をオンライン開催しました。アメリカ、中国、台湾など国内外の研究者5名による講演と活発な意見交換がなされました。(2024.1.26)

③復興農学部門では、福島浜通りの自治体と連携して人材育成や産業振興につなげるための実証事業(イノシシなどの獣害対策実証試験や、マンゴー等地域特産品になりうる農産物の栽培試験)、人材育成・交流(福島県浜通りの復興・課題を学ぶエクステンションツアーなど)に取り組みました。

④東北大学が代表機関となっているCOI-NEXT(JST共創の場形成支援プログラム)の「『みえる』からはじまる、人のつながりと自己実現を支えるエンパワーメント社会共創拠点」にフード・マテリアル部門、「美食地政学に基づくグリーンジョブマーケットの醸成共創拠点」に水圏産業創造部門、「ネイチャーポジティブ発展社会実現拠点」に環境・生物多様性活用部門がそれぞれ参画、推進しています。

(ICAFホームページ: https://www.agri.tohoku.ac.jp/jp/center/agri_icafe/)



みやぎRTK利用拡大コンソーシアム
設立総会・記念シンポジウム(2023.9.4)



革新的食学拠点国際シンポジウム
(2024.1.26)



葛尾村産マンゴーフェスティバル(2023.11.25)